

2023 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q 1 : 航空宇宙システムにおいて、2023 年度計画に PW1100G-JM エンジンの損失リスク[※]を織り込んでいますか。</p> <p>※ 当社が国際共同開発方式で参画している PW1100G-JM エンジンについて、高圧タービンディスクの製造に使用される粉末金属の不具合が確認された (Raytheon Technologies 社発表) ことによる損失リスク</p>	<p>A 1 : 影響額を確認中であり、通期計画には織り込んでいません。 ただし、仮に損失が発生するとしても、計画の達成に向けての大きな妨げとなることは想定していません。</p>
<p>Q 2 : 航空宇宙システムにおいて、2022 年度は通期で黒字を達成していますが、2023 年度 1Q が赤字 (事業損益 ▲46 億円) となった理由を教えてください。</p>	<p>A 2 : 主な要因は以下のとおりです。</p> <p><航空宇宙></p> <ul style="list-style-type: none"> • ボーイング社向けの 787 分担製造品の売上が 2 機に留まったこと (2022 年度 4Q にまとめて完成在庫をボーイング社に引き渡した反動減) • 1Q は防衛省向けの売上規模が小さいこと <p><航空エンジン></p> <ul style="list-style-type: none"> • 売上に占める新造エンジンの割合が高かったこと[※] • 従来、第 4 四半期に集中して発生していた費用の一部を四半期ごとに見積もり計上する経理処理に変更したこと <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> • 従来、第 4 四半期に一括計上していた一部の賞与引当金について、四半期ごとに見積もり計上する経理処理に変更したこと <p>※ 航空エンジン事業は、低採算の新造エンジン販売を好採算のアフターセールスで補うビジネスモデルであるため、新造エンジンの売上構成比が増加すると採算性が悪化する</p>

2023 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q 3 : エネルギーソリューション＆マリンにおいて、2023 年度 1Q の持分法投資利益が 68 億円であるにも関わらず、通期計画では 75 億円（2-4Q で 7 億円の積み）に留まる理由を教えてください。</p>	<p>A 3 : 1Q における中国持分法適用会社の業績は、為替（USD/CNY）が元安で推移したことに加え、鋼材価格が低下したこと等で大きく利益を計上することができました。一方で、2Q 以降は為替前提を足元の水準※よりも元高で見積もり計画を立てているため、持分法投資利益は低位に推移する想定です。そのため、2Q 以降も為替が足元の水準※のまま推移すれば、計画を超過達成する可能性が高まります。</p> <p>※ 1USD=7.2CNY 近辺</p>
<p>Q 4 : 精密機械・ロボットにおける 2023 年度通期計画を売上収益・事業利益ともに引き下げ※していますが、1Q 実績を踏まえると、計画はまだ強気に見えます。計画達成の確度をどのように認識していますか。</p> <p>※ 売上収益 2,600 億円 → 2,400 億円 事業利益 100 億円 → 60 億円</p>	<p>A 4 : 業績は市況の回復時期に大きく左右されるため、計画の達成は容易ではないものの、達成不可能な水準であるとは認識していません。引き続き固定費削減等の施策に取り組み、計画の達成を目指します。</p>
<p>Q 5 : パワースポーツ＆エンジンについて、北米における小売市場の動向や当社の現況を教えてください。</p>	<p>A 5 : ＜北米二輪市場＞ コロナ禍前の 2019 年度を上回る高い水準の需要が継続しており、特に中小型のストリートモデルの人気の高い状況です。その中で、効果的に販売促進費を使用し、新機種投入効果も含めシェアを拡大しています。</p> <p>＜北米オフロード四輪市場＞ レクリエーションモデルは軟調ですが、ユーティリティモデルは堅調に推移しており、市場全体としては底堅い需要が継続しています。昨年度は当社の製品供給が追い付かず、一時的にシェアを落としましたが、足元は在庫の充足が進み、シェアを回復しています。</p>